

「ブルーカーボン研究会」 第2回講演会の開催

○日 時：平成30年6月1日（金） 15時～16時45分
○場 所：TKP品川カンファレンスセンター バンケットホール8C
（東京都港区高輪3-26-33 京急第10ビル）

○プログラム（予定）：

14：30～受付開始

15：00～開演

【開会】

【講演】

①「ブルーカーボンによるCO2吸収」

海上・港湾・航空技術研究所

桑江 朝比呂

②「ブルーカーボンの社会実装に向けて」

東京大学大学院新領域創成科学研究科

教授 佐々木 淳

③「地域の取り組み事例」

（調整中）

16：45 閉会

《開催趣旨》

ブルーカーボンについては、2009年に国連環境計画の報告書「BLUE CARBON」の中で、海洋において海草等により吸収・固定される炭素として、新たに命名される等、近年、地球温暖化対策の新しい可能性として注目されております。

ブルーカーボン研究会では、我が国で初めて、ブルーカーボン生態系を活用した将来のCO2吸収量見込みを試算しました。

このようなことから、これまでの研究会での成果や、ブルーカーボンの社会実装に向けた関係者との連携による研究の展開・取り組みについて、講演会を開催します。



ブルーカーボンについて

- 2009年10月に国連環境計画(UNEP)の報告書において、海洋生物に取り込まれた(captured)炭素が「ブルーカーボン」と命名され、吸収源対策の新しい選択肢として提示された。
- 四方を海に囲まれた日本にとっては、沿岸域の吸収源としてのポテンシャルは大きく、ブルーカーボンの活用にあたっては、その評価方法や技術開発の確立が重要となる。

国連環境計画(UNEP)の報告書
「ブルーカーボン」



【ブルーカーボンについて】

- 海表面の0.2%にあたる沿岸域にて50%以上を吸収
- 陸より海の方が多くの炭素を吸収(1.5倍程度と推定)

ブルーカーボンに関与する
海洋生物の例

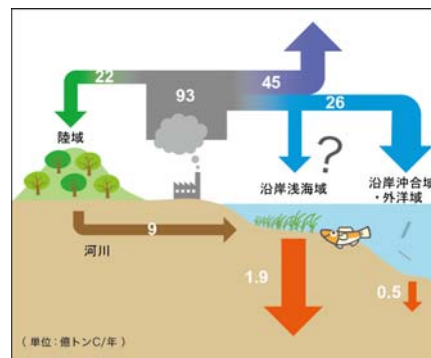


アマモ
写真:「ブルーカーボン」(地人書館)



マングローブ林
写真: 港湾空港技術研究所

炭素循環のイメージ



出典:「ブルーカーボン」(地人書館)

排出された二酸化炭素のうち、一部が陸域(22億t-C/年)や海洋(26億t-C/年)に吸収される。

2030年における吸収量見込みの試算

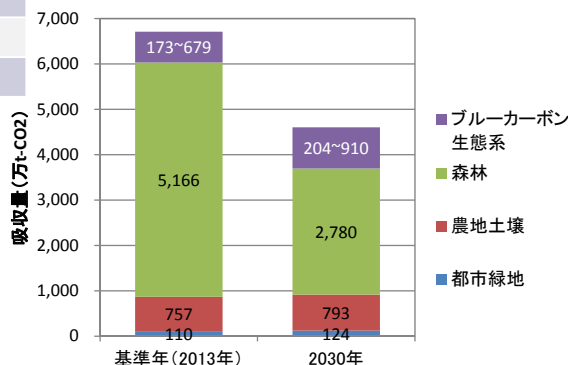
- 今後発生する浚渫土砂等を活用して、ブルーカーボン生態系の造成を行うと仮定し、2030年時点での吸収量見込みについて試算を行った。
- ブルーカーボン生態系による2030年の吸収量について、増減要因はあるものの、標準的な値では204万t-CO₂/年、最大で約910万t-CO₂/年という試算結果となった。
- なお、生態系全体のNPP、残存率の解明、適切な造成手法等の確立、各種リサイクル用材の活用等により、吸収量はさらに増加する可能性がある。

| ブルーカーボン生態系 | 面積【万ha】 | | 吸収量【万t-CO ₂ /年】 | | | |
|------------|---------|-------|----------------------------|-------|------------|-------|
| | 基準年 | 2030年 | ケース① | | ケース② | |
| | | | 基準年(2013年) | 2030年 | 基準年(2013年) | 2030年 |
| 海草藻場 | 6.2 | 8.3 | 36 | 48 | 254 | 377 |
| 海藻藻場 | 17.1 | 18.3 | 71 | 83 | 359 | 460 |
| マングローブ林 | 0.27 | 0.30 | 18 | 21 | 18 | 21 |
| 干潟 | 4.9 | 5.4 | 48 | 52 | 48 | 52 |
| 計 | 28.5 | 32.3 | 173 | 204 | 679 | 910 |

- ・藻場造成(海草藻場2.1万ha、海藻藻場1.2万ha)に取り組むことにより、2030年における海草藻場による吸収量は33~48%増、海藻藻場は17~28%増。
- ・全体では面積は14%増加し、吸収量はケース①では18%、ケース②では34%増加する。
- ・2030年におけるブルーカーボン生態系による吸収量は、最大で全体の約20%に相当する。

※

1. 全て排出量を考慮した推計値としている。
2. 藻場の吸収係数について、ケース①はアマモNPP/藻場全体NPPの平均を用いて平均値を推計し、ケース②はともにも最大を準用して推計した値である。
3. 海藻藻場は、ガラモ場・コンブ場・アラメ場毎に推計した合計値を示す。
4. 基準年の値について、森林・農地土壌・都市緑地は地球温暖化対策計画における2013年度の実績値、ブルーカーボン生態系は既存知見(藻場面積:2009~2010年、マングローブ林・干潟面積は1996~1998年)による推計値である。



※グラフは上限値を基に作成

申込書

| | | | |
|--------|------|------|--|
| 貴社・団体名 | | | |
| TEL | | FAX | |
| E-mail | | | |
| ご参加者名 | ふりがな | ふりがな | |
| | | | |
| | ふりがな | ふりがな | |
| | | | |

ご意向をお知らせください。

| | |
|---------------------|---------------|
| 当研究会との研究活動の連携に関心がある | (はい いいえ) ○等で |
| 研究内容について詳細に意見交換したい | (はい いいえ) 選択下さ |
| 今後も情報の提供を希望する | (はい いいえ) い |

その他ご意見などがありましたら記載ください。

- 参加または取材をご希望の方は上記欄に必要事項をご記入の上、FAXまたはメールにてお申し込み下さい。
申込期限：5/28（月）17:00まで
- 応募多数の場合はご希望にかなえない場合もあります。

※ご都合により参加できないものの、研究活動の連携等に興味をお持ちの場合は、
下記申込先にご一報下さい。

会場のご案内



一交通アクセス

<JR線をご利用の場合>
品川駅 高輪口 から徒歩1分

<京急線をご利用の場合>
品川駅 から徒歩2分

《申込先》

一般財団法人みなと総合研究財団
高野・荻木（ちさき）

TEL：03-5408-8298

FAX：03-5408-8741

E-mail：bluecarbon@wave.or.jp